

第4回 復興道路会議 ～ 岩手県 ～

日 時：平成26年 5月16日（金）
10：00～

場 所：宮古地区合同庁舎3階大会議室

議 事 次 第

1. 挨拶

国土交通省 東北地方整備局 道路部長
岩手県 県土整備部長

2. 議 事

1) 復興道路・復興支援道路の進捗状況について 資料1～3

2) 復興道路・復興支援道路の「見える化」について

資料4

3) 地域復興の加速化への取組みについて

資料5

4) その他

資 料 一 覧

○ 次 第

○ 第 4 回復興道路会議～岩手県～ 配席図

○ 復興道路会議～岩手県～ 規約

○ 復興道路会議～岩手県～ 構成員

○資料－1 復興道路・復興支援道路の各道路別進捗状況

○資料－2 各事業区間の進捗状況

○資料－2－1

復興道路の整備にかかる県の道路整備事業の進捗状況

○資料－2－2 岩手県における主な取組みについて

○資料－3 開通区間の整備効果について

○資料－4 復興道路・復興支援道路の「見える化」について

○資料－5 地域復興の加速化への取組みについて

○（図面）復興道路の概要、岩手県の概要

「復興道路会議～岩手県～」

役 職 名	氏 名
岩手県県土整備部長	佐藤 悟
岩手県農林水産部長	小原 敏文
岩手県教育委員会教育長	高橋 嘉行
盛岡市副市長	藤尾 善一
宮古市副市長	山口 公正
大船渡市副市長	角田 陽介
花巻市副市長	高橋 穰児
久慈市副市長	中居 正剛
遠野市副市長	菊池 孝二
陸前高田市副市長	久保田 崇
釜石市副市長	若崎 正光
奥州市都市整備部長	境田 洋春
住田町副町長	小泉 きく子
大槌町副町長	大水 敏弘
山田町副町長	佐藤 聡
岩泉町副町長	橋場 覚
田野畑村副村長	菊地 昭夫
普代村副村長	太田 敏光
野田村副村長	高橋 幸司
洋野町副町長	下川原 康文
(一社)東北経済連合会 専務理事	渡辺 泰宏
岩手県商工会議所連合会 専務理事	廣田 淳
(一社)岩手経済同友会 専務理事	鈴木 修
(株)岩手日報社 常勤監査役	小笠原 裕
復興庁 岩手復興局次長	森 勝彦
国土交通省 東北地方整備局 道路部長	川崎 茂信
国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所長	村井 禎美
国土交通省 東北地方整備局 三陸国道事務所長	永井 浩泰
国土交通省 東北地方整備局 南三陸国道事務所長	佐藤 和徳

復興道路会議～岩手県～

規約

(名称)

第1条 本会議は、「復興道路会議～岩手県～」と称する。

(目的)

第2条 本会議は、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとなる復興道路等の早期完成を図るため、全ての関係者に対する事業進捗への合意形成と、国・県・市町村・関係機関の連携による課題解決を目的として開催する。

(協議事項)

第3条 本会議は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる連絡及び調整を行う。

- 一 事業の合意形成に関する事項
- 二 事業促進の課題解決に関する事項
- 三 その他本会の目的を達成するために必要な事項

(対象事業)

第4条 本会議で対象とする復興道路は、以下のとおりとする。

- 一 三陸沿岸道路
- 二 東北横断自動車道釜石秋田線、宮古盛岡横断道路
- 三 その他

(組織)

第5条 本会議は、以下の構成員をもって組織する。

- 一 岩手県、復興庁 岩手復興局
国土交通省 東北地方整備局
- 二 復興道路等の関係市町村
- 三 地域経済界及び報道関係代表

(事務局)

第6条 本会議の庶務は、岩手県県土整備部及び国土交通省東北地方整備局道路部において処理する。

(雑則)

第7条 この規約に定めるもののほか、本会議の運営に関して必要な事項は会議において定める。

復興道路の概要



三陸沿岸道路 359 km
 [震災後新規区間 148 km]

宮古盛岡横断道路 (宮古～盛岡) 100km
 [H23補正新規区間48km]

東北横断自動車道釜石秋田線 (釜石～花巻) 80km
 [震災後新規区間17km]

みやぎ県北高速幹線道路 24km
 [震災後新規区間11km]
 (宮城県)

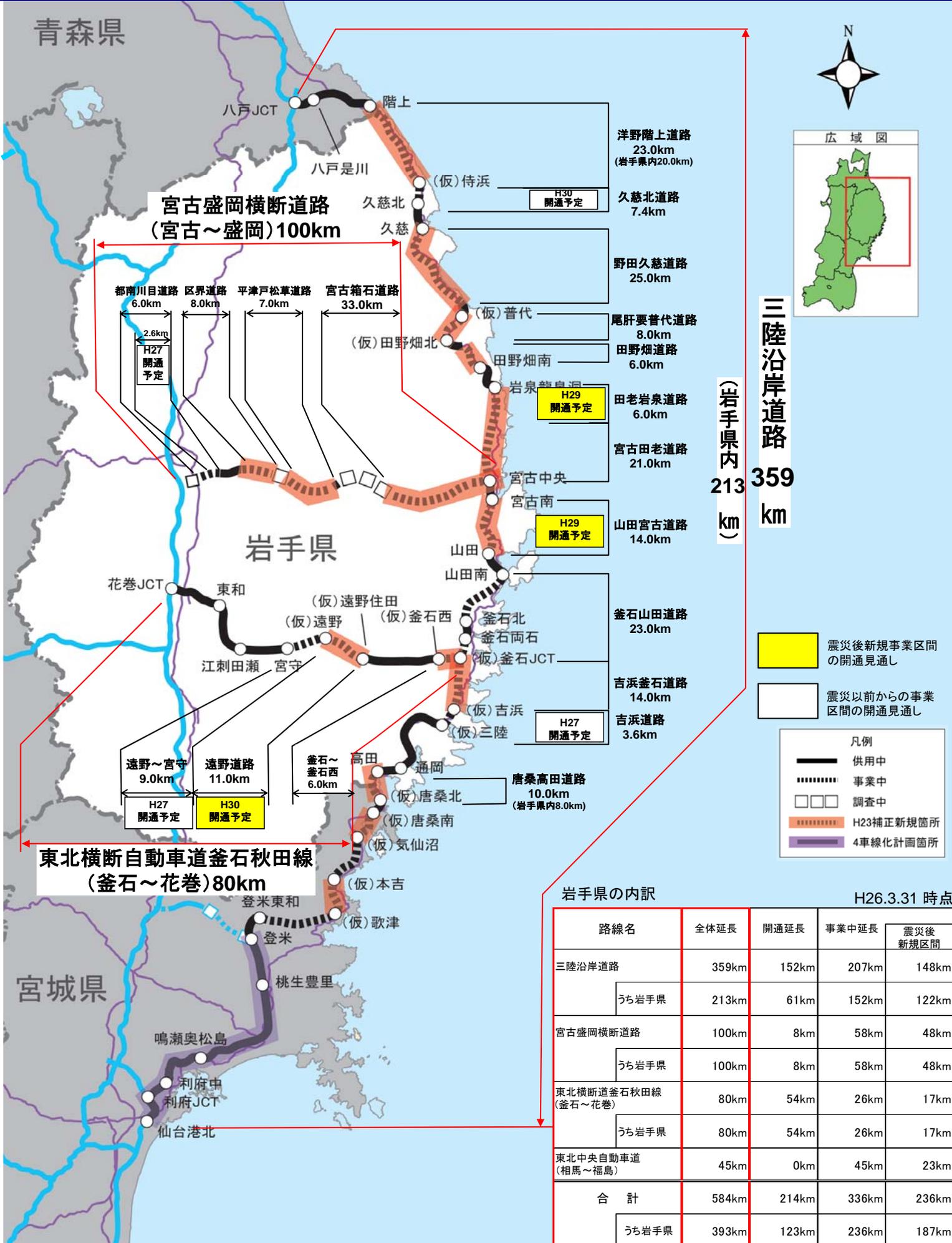
東北中央自動車道 (相馬～福島) 45km
 [震災後新規区間23km]

復興道路の総延長584km
 [震災後新規区間236km(40%)]

H26.3.31時点

	全体延長	開通延長	事業中延長	うち
				震災後新規
三陸沿岸道路	約 359km	152km	207km	148km
宮古盛岡横断道路	約 100km	8km	58km	48km
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	54km	26km	17km
東北中央道 (相馬～福島)	約 45km	0km	45km	23km
合計	約 584km	214km	336km	236km

岩手県内の概要



復興道路・復興支援道路の各道路別進捗状況

資料-1

《平成25年度の進捗状況》

- 三陸沿岸道路で**4区間(約18km)が開通**(4車線化は約7km開通)
- 三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路をはじめとして**用地が約3割進捗し、復興道路全体の用地進捗率は約8割まで進捗**
- 新たに10区間で工事に着手し、**工事着手率※2は約9割まで進捗**

平成26年4月25日現在

(直轄)	全体延長	開通延長	事業中延長	※1	※2	主要構造物 着手率	主要構造物 完成率
				用地進捗率	工事着手率		
				上段:H25.3.31現在 下段:H26.3.31現在			
三陸沿岸道路	約 359km	134km	225km	約60%	約60%	—	—
		152km	207km	約80%	約90%	59%	30%
宮古盛岡横断道路	約 100km [※]	8km	58km	約40%	約20%	—	—
		8km	58km	約70%	約60%	40%	33%
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	54km	26km	約80%	約90%	—	—
		54km	26km	約90%	100%	79%	65%
東北中央道 (相馬～福島)	約 45km	0km	34km	約50%	約60%	—	—
		0km	45km	約60%	約80%	63%	17%
合計	約 584km	196km	343km	約60%	約60%	—	—
		214km	336km	約80%	約90%	59%	34%

※未事業化区間約34kmを含む

(4車線化)	全体延長	開通延長	事業中延長	※1	※2	主要構造物 着手率	主要構造物 完成率
				用地進捗率	工事着手率		
				上段:H25.3.31現在 下段:H26.3.31現在			
三陸沿岸道路	約 52km	4km	48km	100%	100%	100%	—
		11km	41km	100%	100%	100%	56%

※1: 用地進捗率 = 取得済面積(ha) / 必要面積(ha)

※2: 工事着手率 = 工事に着手したIC間延長 / 計画済延長

復興道路・復興支援道路の進捗指標（案）

○ 主要構造物の整備の動きが見える指標

⇒ 主要構造物(トンネル、橋梁(橋長15m以上))の着手率、完成率

■ 主要構造物着手率

主要構造物着手率 (%) = (着手済 + 完成済構造物数) ÷ 全構造物数

参考: H25年度末現在: 約59%

■ 主要構造物完成率

主要構造物完成率 (%) = 完成済構造物数 ÷ 全構造物数

参考: H25年度末現在: 約34%

(定義)

- ・着手済: 現地作業着手済 + 完成済
- ・完成済: 橋梁は床版まで完成、トンネルは本体工まで完成

【岩手県】各事業区間の進捗状況

資料-2
(平成26年4月25日現在)

路線名	市町村名	事業区間名	延長	開通予定	用地進捗率 (面積ベース)	埋蔵文化財 調査完了率	保安林解除	事業進捗上の課題	
					上段:H25.3.31現在 下段:H26.3.31現在				
三陸沿岸道路									
洋野町		洋野階上道路 (侍浜～階上)	23.0km (20.0km)	—	約13%	約60%	対象外	・用地取得の推進	
					約40%	約60%			
久慈市		久慈北道路	7.4km	H30年度	約86%	約40%	対象外	・用地取得の推進	
					約89%	約80%			
		久慈道路	3.2km	H5.12.16開通					
野田村		野田久慈道路 (普代～久慈)	25.0km	—	約14%	約80%	未申請	・用地取得の推進	
					約79%	100%	6箇所/8箇所解除済		
普代村		普代道路(普代バイパス)	4.2km	H25.10.13開通					
田野畑村		尾肝要普代道路 (尾肝要～普代)	8.0km	—	約21%	約80%	対象外	・用地取得の推進	
					約69%	100%			
		尾肝要道路	4.5km	H26.3.2開通					
岩泉町		田老岩泉道路 (田老～岩泉)	6.0km	H29年度	約22%	約90%	対象外	・用地取得の推進	
					約91%	100%			
		岩泉道路(中野バイパス)	6.2km	H22.11.28開通					
宮古市		宮古田老道路 (宮古中央～田老)	21.0km	—	約64%	約70%	対象外	・用地取得の推進	
					約99%	100%			
					約65%	約20%			
		宮古道路	4.8km	H22.3.21開通	約83%	約60%			
山田町		山田宮古道路 (山田～宮古南)	14.0km	H29年度	約57%	約70%	対象外	・用地取得の推進	
					約88%	100%			
		山田道路	7.8km	H14.8.2開通					
大槌町		釜石山田道路	23.0km	—	約77%	約20%	未申請	・用地取得の推進	
					約80%	約80%	2箇所/2箇所解除済		
釜石市		吉浜釜石道路 (吉浜～釜石)	14.0km	—	約52%	約40%	申請済	・用地取得の推進	
					約85%	約80%	4箇所/5箇所解除済		
大船渡市		吉浜道路	3.6km	H27年度	100%	100%	対象外		
					100%	100%			
		大船渡三陸道路	17.6km	H17.3.19開通					
		高田道路	7.5km	H26.3.23開通					
陸前高田市		唐桑高田道路 (唐桑北～陸前高田)	10.0km (8.0km)	—	約38%	約60%	1箇所/1箇所解除済	・用地取得の推進	
					約69%	100%	1箇所/1箇所解除済		
東北横断自動車道 釜石秋田線(釜石～花巻)									
釜石市		釜石道路 (釜石～釜石西)	6.0km	—	約29%	0%	申請済	・用地取得の推進	
					約51%	100%	3箇所/4箇所解除済		
遠野市		仙人峠道路	18.4km	H19.3.19開通					
遠野市		遠野道路 (遠野住田～遠野)	11.0km	H30年度	約62%	約20%	申請済	・用地取得の推進	
					約97%	約100%	5箇所/6箇所解除済		
		遠野～宮守	9.0km	H27年度	約99%	0%	対象外		
		宮守～東和	23.7km	H24.11.25開通	約99%	100%			
花巻市		東和～花巻	11.4km	H14.11.7開通					
宮古盛岡横断道路									
宮古市		宮古西道路 ※岩手県施行	3.3km	—	約76%	約60%	対象外	・用地取得の推進	
					約78%	約60%			
		宮古箱石道路 (宮古～箱石)	33.0km	—	0%	0%	未申請	・用地取得の推進	
					約52%	100%			5箇所/5箇所解除済
		達曽部道路	1.4km	H11.12.16開通					
		平津戸松草道路 (平津戸・岩井～松草)	7.0km	—	0%	0%	未申請	・用地取得の推進	
					約8%	100%	未申請		
盛岡市		区界道路 (区界～築川)	8.0km	—	0%	0%	未申請	・用地取得の推進	
					約31%	100%	未申請		
				築川道路	6.7km	H25.3.9開通			
		都南川目道路	6.0km	H27年度 (一部)	約79%	約50%	対象外	・建設発生土搬出先の調整	
					約97%	100%			

※1: 用地進捗率=取得済面積(ha)/必要面積(ha) (H26.3月末現在)
 ※2: 埋蔵文化財調査完了率=試掘調査完了面積(ha)/試掘調査必要面積(ha) (H26.3月末現在)

1. 宮古盛岡横断道路

築川道路 L=約6.7km【H25.3.10供用】



宮古西道路



(仮称) 長沢川橋 (下部工)



(仮称) 長沢川橋 (上部工製作)



松山地区地盤改良

復興道路の整備にかかる県の道路整備事業の進捗状況

2. インターアクセス線の整備

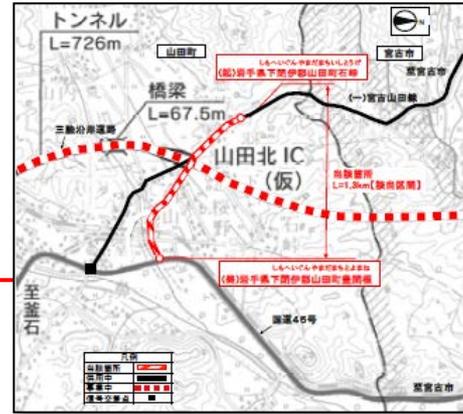
(仮)野田IC
野田山形線(野田地区)
L=約1.4km (H24年度~)



(仮)宮古北IC
北部環状線(宮古市道) 市町村代行整備
L=約2.5km (H23年度~)



(仮)山田北IC
宮古山田線(豊間根地区)
L=約1.3km (H25年度~)



(仮)遠野IC
遠野住田線(新里地区) L=約2.1km (H21年度~)



岩手県における主な取り組みについて

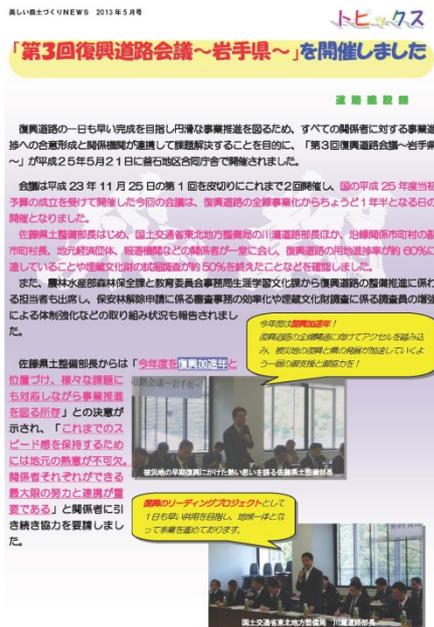
1 広報関係

広報誌「いわてグラフ」、「県土づくりNEWS」やホームページで「復興道路会議」などの取り組みについて情報発信

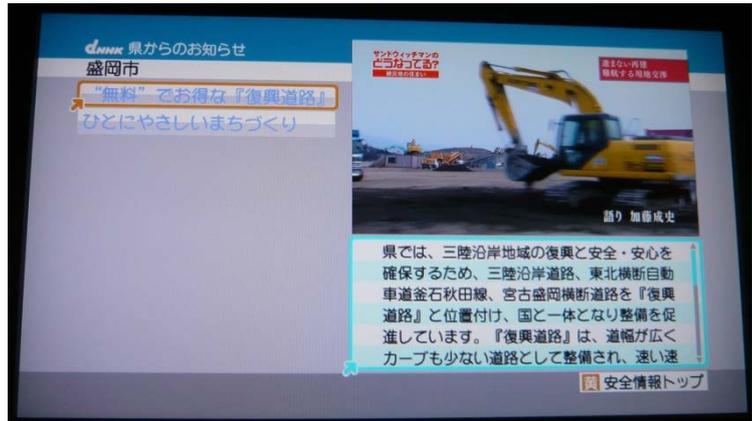
県政広報誌「いわてグラフ」での特集記事



県土づくりNEWS



デジタルデータ放送による広報



2 組織・体制の強化等

- (1) 県土整備部道路建設課内に復興道路相談窓口の設置
- (2) 岩手県復興道路整備促進対策室の設置
- (3) 復興事業にかかる関係職員の体制強化
 - ① 保安林 : 1名増
 - ② 埋蔵文化財 : のべ18名増
 - ③ 用地事務 : 13名増 (うち沿岸5公所11名増)
※ いずれもH26の体制
- (4) 復興支援道路の用地事務の受託 (2路線6工区)
 - ① 東北横断自動車道釜石秋田線
「釜石～釜石西」、「遠野住田～遠野」
 - ② 宮古盛岡横断道路
「宮古箱石道路」、「平津戸松草道路」、「区界道路」、「都南川目道路」

3 連絡調整

関係機関の担当課長等で構成される復興道路整備促進連絡調整会議を設置
(これまでに全体会議5回、個別会議12回、計17回開催)

第17回会議の開催状況(H26.2.13)

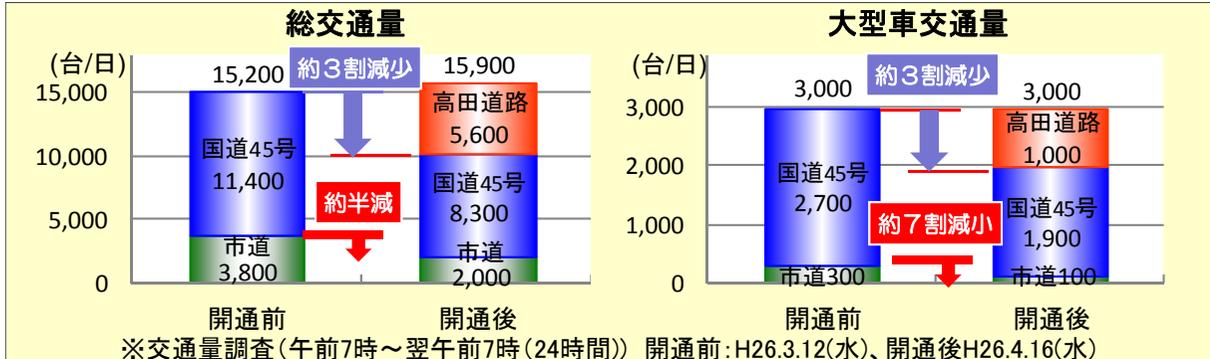


◆国道45号の津波浸水箇所を回避する 高田道路が全線開通(平成26年3月23日)



◆並行市道の交通量が半減、大型車は約7割減少

- 並行道路の総交通量及び大型車交通量が3割減少
- 生活道路の並行市道では、総交通量が半減、大型車両が約7割減少



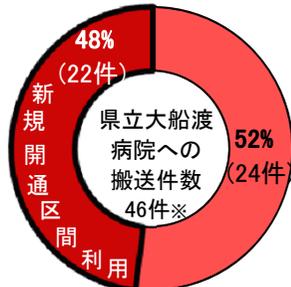
- 市道の交通量が減少し、スムーズに走行可能
- 高田道路開通後、市道の交通量が大幅に減少したことを感じている。特に大型車両が少なくなった。



※高田タクシー有限会社ヒアリング(H26.5)より

◆陸前高田市から県立大船渡病院への救急搬送は、高田道路を100%利用。約半数は新規開通区間で時間が短縮

『開通後の陸前高田市から県立大船渡病院までの搬送状況』



- 凡例
- 高田道路利用(通岡ICから利用した搬送)
 - 高田道路利用(新規開通の陸前高田IC利用搬送)

※陸前高田市消防本部救急搬送実績より
(H26.3.23～H26.4.30 陸前高田市から県立大船渡病院への搬送件数 N=46件中)

- 搬送時の速達性、安全性の向上
- 陸前高田市の横田、矢作、竹駒地区から県立大船渡病院への救急搬送は、高田道路の全線開通前は一部国道45号を利用していたが、全線開通で5分ほど時間短縮された。
- カーブ、アップダウンが少なく走りやすく患者、付添人の負担も軽減されている。



※陸前高田市消防本部ヒアリング(H26.4)より



～津波浸水区域を回避し、道路の信頼性を確保～

■三陸沿岸道路は約95%の区間で津波浸水区域を回避し、有事においても寸断されない強靱で信頼性の高い道路ネットワークを形成します

【大震災の津波を免れ交通機能を発揮】

三陸沿岸道路(釜石山田道路)



▼津波被害を受けた時の国道45号(陸前高田市内)

【沼田跨線橋】



→3月24日まで通行止

【気仙大橋】



→7月10日まで通行止

陸前高田市の被災状況



震災時の迂回路



三陸沿岸道路は津波浸水区域を回避

震災時の迂回路



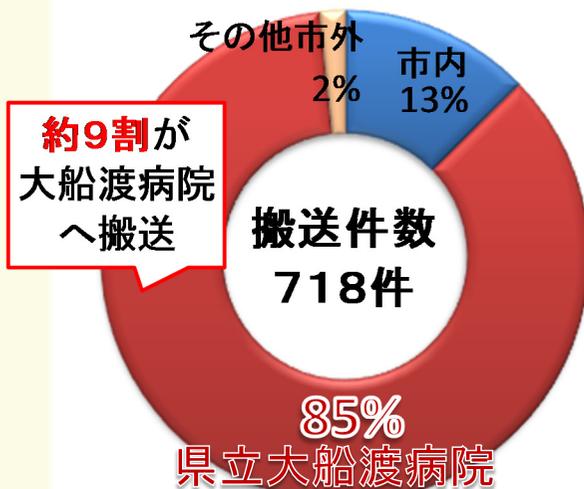
津波浸水区域

～救急搬送時間の短縮で安心な生活を確保～

- 陸前高田市全人口の約3割(約5,300人)の救急搬送時間が、さらに短縮します
- 連続した急カーブ等を回避し、迅速・安静な救急搬送が実現します

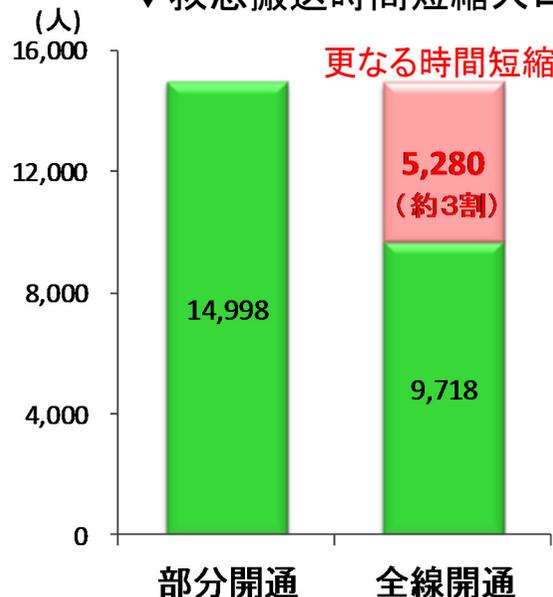


▼陸前高田市からの救急搬送先

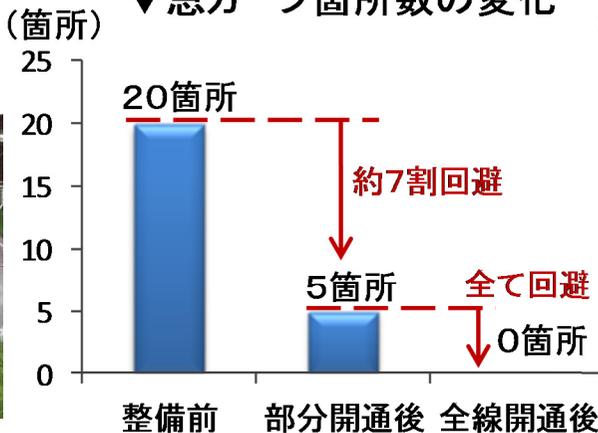


※出典: 陸前高田市消防本部 H24搬送実績

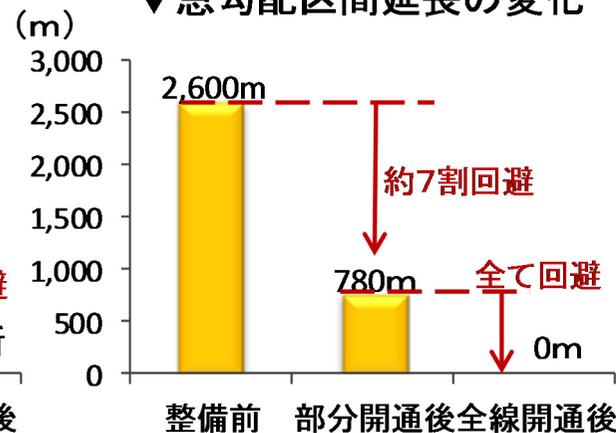
▼救急搬送時間短縮人口



▼急カーブ箇所数の変化



▼急勾配区間延長の変化



～産業活性化で地域の活力を支援～

■大船渡港から大消費地(東京等)への速達性の向上および輸送コストの縮減により、水産業の活性化を支援します

▼大船渡港～東京までの輸送ルート



関東方面へ

資料: H22センサス

▼大船渡港～東京間の所要時間

所要時間が**約55分短縮**
(465分→410分)

▼大船渡港～東京間の走行経費

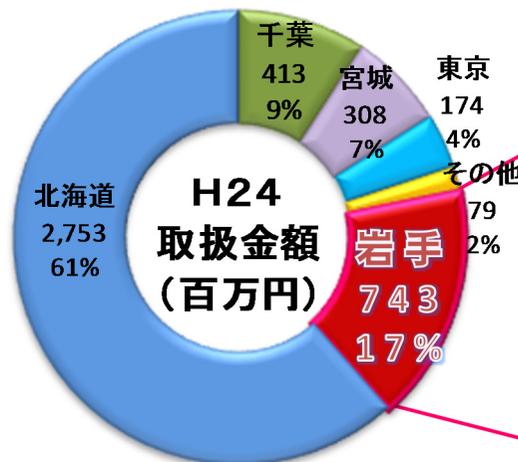
走行経費が**約1,100円削減**
(15,800円→14,700円)

※走行経費: 燃料費など自動車走行に係る経費(有料道路利用料金は含まない)
速度に応じた原単位と走行距離によって算出(費用便益分析マニュアル)

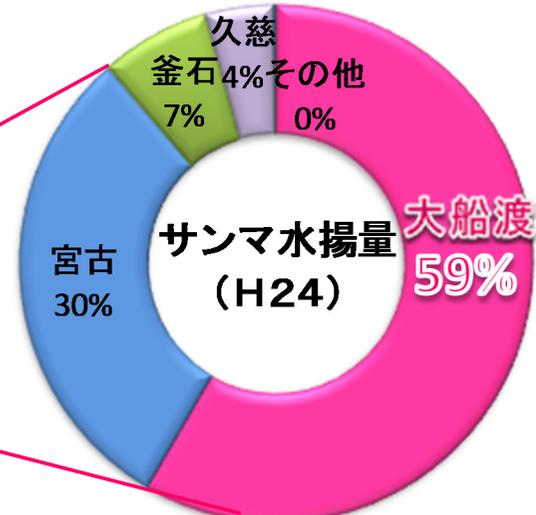


大船渡港のサンマ

▼産地別取扱実績(サンマ)



▼岩手県内漁港別サンマ水揚量割合



出典: 東京都中央卸市場(H24)

出典: 水産庁 水産物流統計(H24) 4

～新たな観光ルートの誕生で観光振興に期待～

- 三陸沿岸地域はジオパーク、復興国立公園に指定され、魅力的な観光資源が点在します
- 高規格道路による広域周遊ルート形成で観光振興が期待されます

内陸の観光地



八幡平(八幡平市)
入込客数186万人/年



遠野盆地(遠野市)
入込客数154万人/年



展勝地(北上市)
入込客数77万人/年

世界遺産 平泉(平泉町)
入込客数208万人/年



中尊寺



毛越寺

三陸ジオパーク
H25年9月24日
日本ジオパーク認定

青森県	八戸市 階上町
岩手県	沿岸13市町村 住田町
宮城県	気仙沼市



三陸復興国立公園

浄土ヶ浜
(宮古市)



北山崎
(田野畑村)



御箱崎
(釜石市)



船越半島大釜崎
(山田町)



奇跡の一本松
(陸前高田市)



基石海岸
(大船渡市)

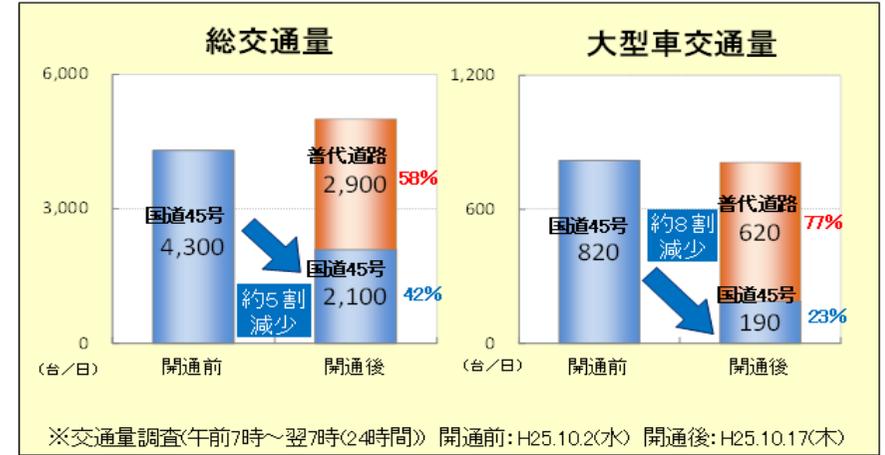


※資料:平成21年
岩手県観光統計概要

三陸沿岸道路 普代道路 整備効果

◆普代村中心部を通る**国道45号のバイパスとして、普代道路が開通**(平成25年10月13日)

◆国道45号の交通が普代道路へ転換
総交通量が約5割減少、大型車は約8割減少



▲開通後の交通量変化

◆普代道路の供用により通過交通が転換し、国道45号が**生活道路として復活**
◆国道45号を活用した**地域振興の新たな取り組み**として、**地元商工会議所などの主催により「冬の市」を開催**

- ◆名称:ふだいまると元気市 冬の市
- ◆日時:平成25年12月1日(日)10時~14時
- ◆場所:岩手県下閉伊郡普代村第9地割



地元芸能 ふだい荒磯太鼓の演奏



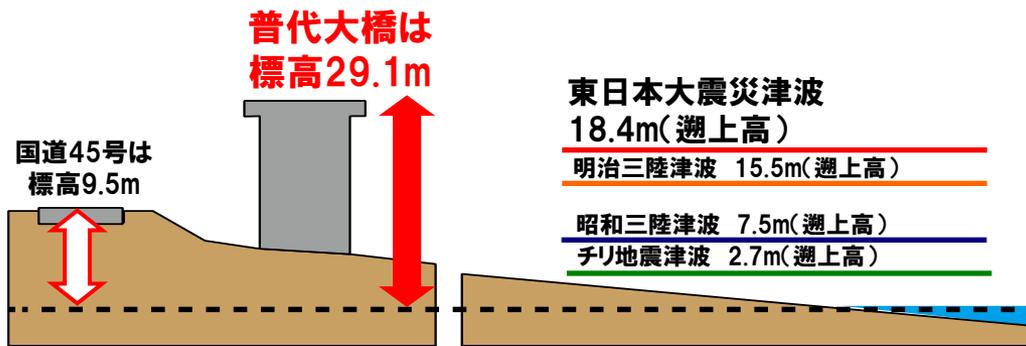
歩行者天国とし地元商店街による出店

普代道路の整備効果（1）緊急輸送路の確保

◆ 津波等の災害発生時でも道路ネットワークが寸断されることなく、安定した物資輸送が確保されます。

津波時も寸断しない強靱な道路ネットワーク

東日本大震災津波でも寸断されない高架構造。



▲普代道路の高架構造

災害時の確実な輸送が実現

災害時も石油類の安定供給に寄与。

八戸港の石油タンクから三陸沿岸地域へ輸送

1日の石油類輸送量
600キロリットル/日

灯油換算

三陸沿岸地域の
全世帯が冬場に
1日で使う量に相当



沿岸部の道路ネットワークを確保

国道通行止め時でも大幅迂回を回避。



▲国道通行止め発生時の迂回ルート(宮古～久慈間)

普代道路の整備効果（2）避難場所の機能

◆ 避難階段の設置により、津波発生時の避難場所としても機能します。

津波からの迅速な避難と孤立を回避

普代中学校に接する道路法面に設置。
普代小学校・中学校からの迅速な避難が可能。

避難階段

- 長さ：45メートル
- 幅：2メートル

避難場所

- 高さ：標高39メートル
- 広さ：約140平方メートル
(大人150人分)



▲普代道路脇の避難場所



▲普代小学校・避難階段を使った訓練(H25.5.23)



▲避難階段の位置

普代小学校長の声

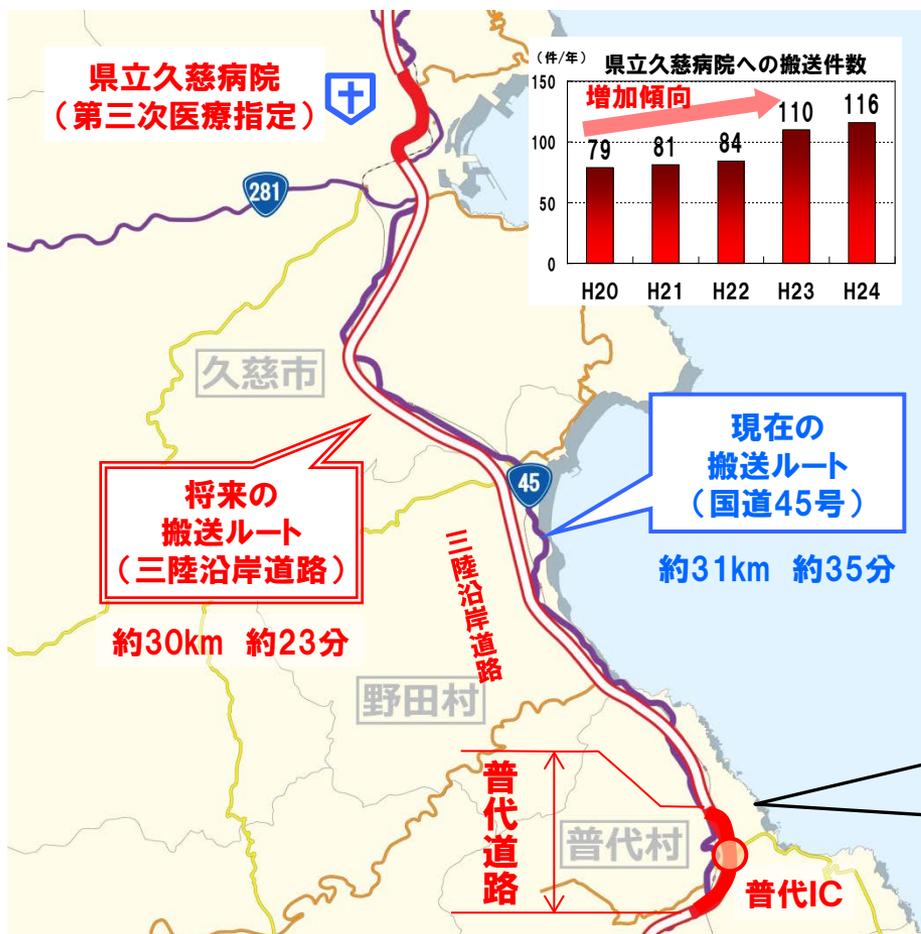
子供たちは約10分で避難可能となり、安心して学校生活を過ごすことができます。

普代道路の整備効果（3） 救急医療の向上

◆ 救急搬送時間の短縮、交通隘路の回避によって
より安心される救急医療サービスが期待されます。

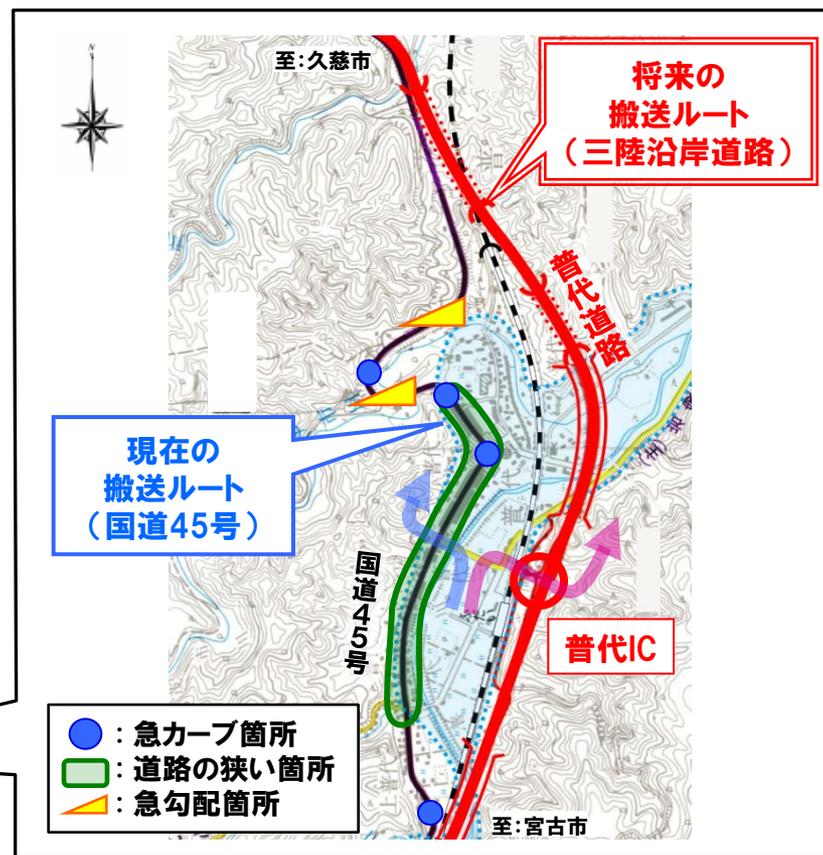
搬送時間の短縮

約12分の短縮により、救命率の向上が期待。



交通隘路の回避

急カーブ等を回避し、患者の負担軽減、
スムーズな応急処置が可能。



普代道路の整備効果（４）沿道環境の改善

◆ 大型車等の通過交通が転換し、国道45号が生活道路として、機能することが期待されます。

歩行者が安全に安心して歩けるように



▲車道・歩道が狭い区間



▲直角曲り地点

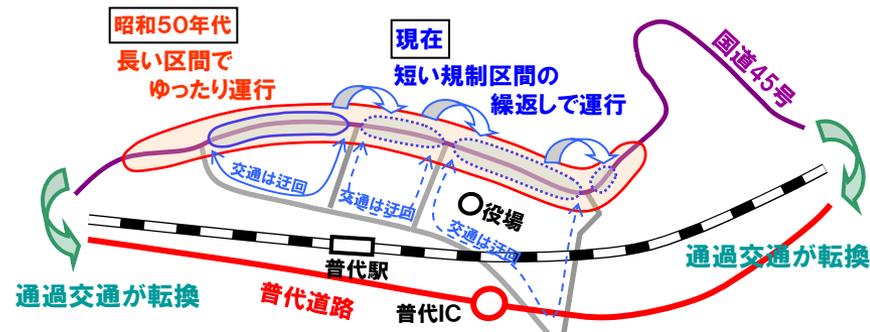


過去4年の死傷事故5件（うち、1件が歩行者死亡事故）

▲国道45号 交通隘路箇所

ふだいまつりが昔のような賑わいに

長区間・長時間の交通規制が可能となり、昔のようなゆったりとした長い区間での祭りの復活に期待。



▲ふだいまつり 山車運行のイメージ



▲以前のふだいまつりの様子

みなさんの期待の声

● ゆっくりと時間をかけて山車の運行ができ、神楽披露や出店なども国道で出来るので、昔のような国道での賑わいのある祭りの復活を期待します。

普代道路の整備効果（5） 地域振興

◆ 都市間所要時間の短縮で、観光客増加による観光活性化や、水産物輸送での鮮度確保による品質向上が期待されます。

観光産業の活性化

観光客の増加が期待。

観光関係者の声

三陸エリア全体のアクセスが良くなり、**観光客の増加に繋がる**と思います。



▲黒崎(普代村) 約4万人/年

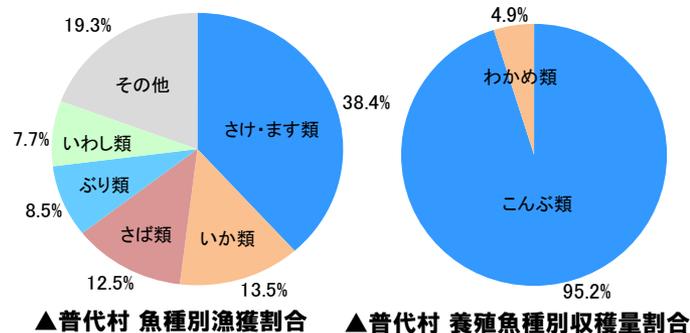


▲北山崎(田野畑村) 約57万人/年



水産物輸送での品質向上

鮮度の良い状態で輸送が可能。



▲太田名部漁港

さけ、いか、さば等の水産物を三陸沿岸地域(久慈、八戸、宮古等)の加工場へ輸送。

水産加工関係者の声

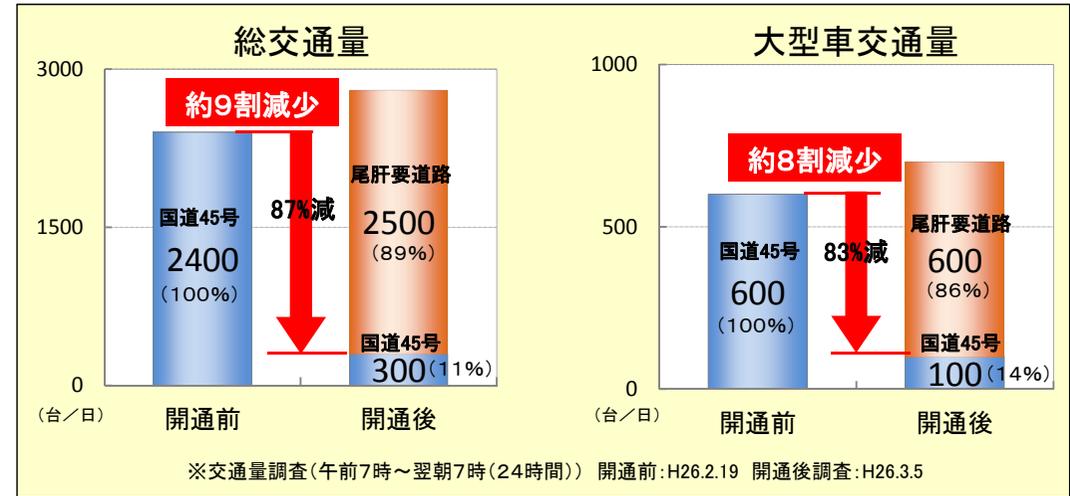
- 久慈や宮古などの加工場への輸送時間が短縮され、**鮮度の良い状態**で加工が出来ます。
- 入荷待ち時間が少なくなり、加工処理作業での**時間の無駄が無**くなります。

三陸沿岸道路 尾肝要道路 整備効果

◆国道45号の最大難所「閉伊坂峠」をトンネルで回避する、尾肝要道路が開通（平成26年3月2日）



◆交通量が尾肝要道路へ転換、45号交通量が約9割減少、大型車は約8割減少



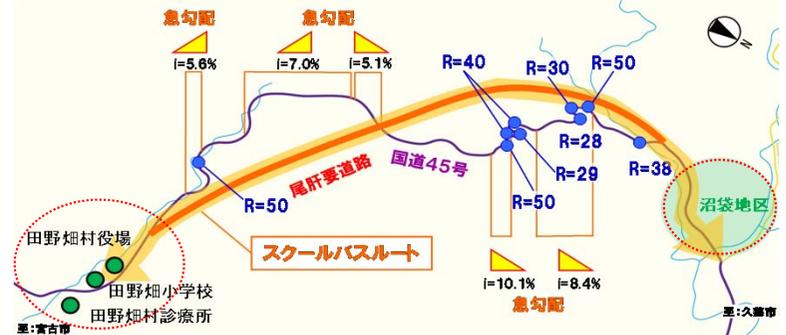
◆沿線利用者が生活利便性や安全性、定時性の向上を実感

急勾配・急カーブが連続する国道45号



■生活利便性の向上 【沼袋地区住民の声】 ※ヒアリング調査より

- 国道45号は急勾配や急カーブが連続し、特に冬期は事故が心配でしたが、尾肝要道路は勾配が緩く急カーブもないことから安心感が大きいです。
- 閉伊坂峠の難所解消で、役場や診療所などへ通いやすくなりました。



急カーブ箇所 (R<150m)

21箇所(最小R=28m)

↓
0箇所(最小R=950m)

急勾配延長 (i>5%)

3km(最大i=10.1%)

↓
0km (最大i=2.5%)

■安全性・定時性の向上【スクールバス運転手の声】 ※ヒアリング調査より

- スリップやスタックの心配も無くなり、安全にスクールバスを運行できます。
- 通学時間も、5分(35分→30分)ほど短縮し、降雪時に遅れる心配がなくなりました。



地域間の交流促進で人や物、そして「こころ」も運ぶ

- ◆国道45号で最も標高が高い「閉伊坂峠」が地区間交流の障害
- ◆最大難所の解消により、村内・外との交流機会の増加による地域間交流を促進



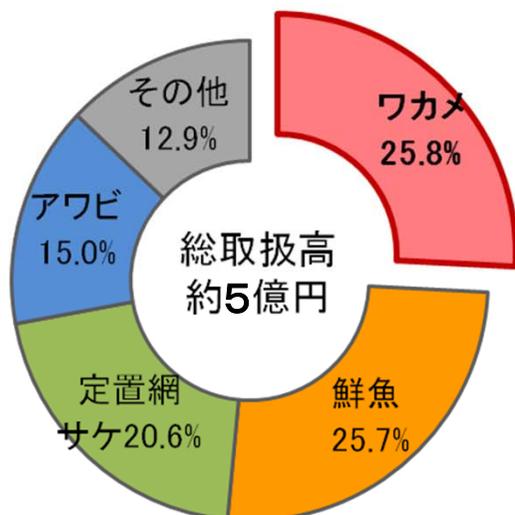
▲深さ100m以上の谷に架かる思惟大橋と榎木沢橋

鮮度・品質確保により地場産業の復興に貢献

◆ 田野畑村の主要製品の「生ワカメ」は主に久慈・八戸方面へ、「牛乳・乳製品」は宮古・盛岡方面へと広く出荷

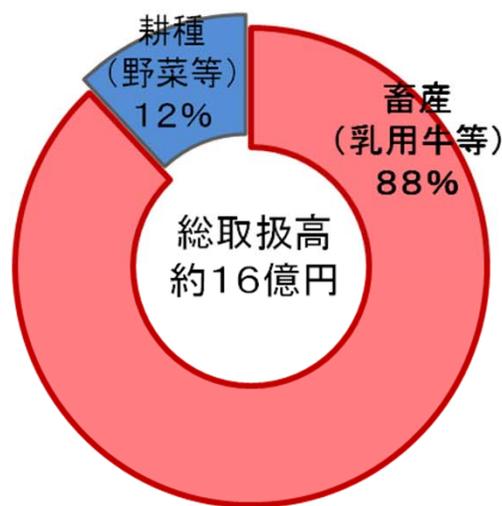
◆ 輸送時間の短縮と荷痛みの減少、確実な輸送により、品質向上や販路拡大に期待

生ワカメが主要水産品



▲H24主要水産品取扱高割合 (漁業協同組合報告書より)

牛乳・乳製品が主力製品



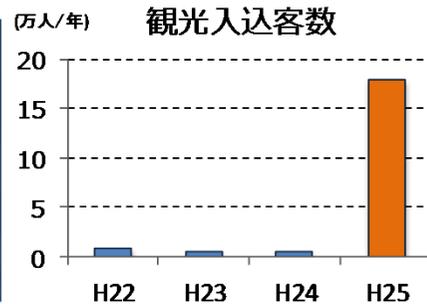
▲H18主要産物取扱額割合 (生産農業所得統計)



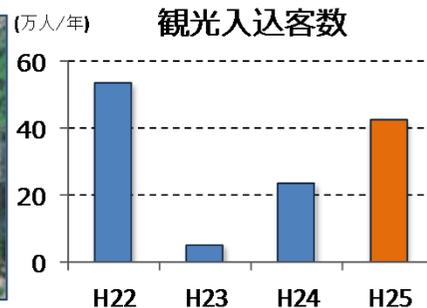
観光資源の広域連携により観光産業の復興を支援

- ◆三陸ジオパーク認定や三陸復興国立公園創設で三陸沿岸に脚光
- ◆豊富な観光資源を広域ネットワークで連結し、沿岸地域の観光産業発展を支援

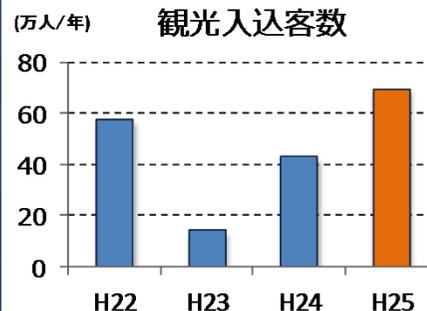
小袖海岸(久慈市)



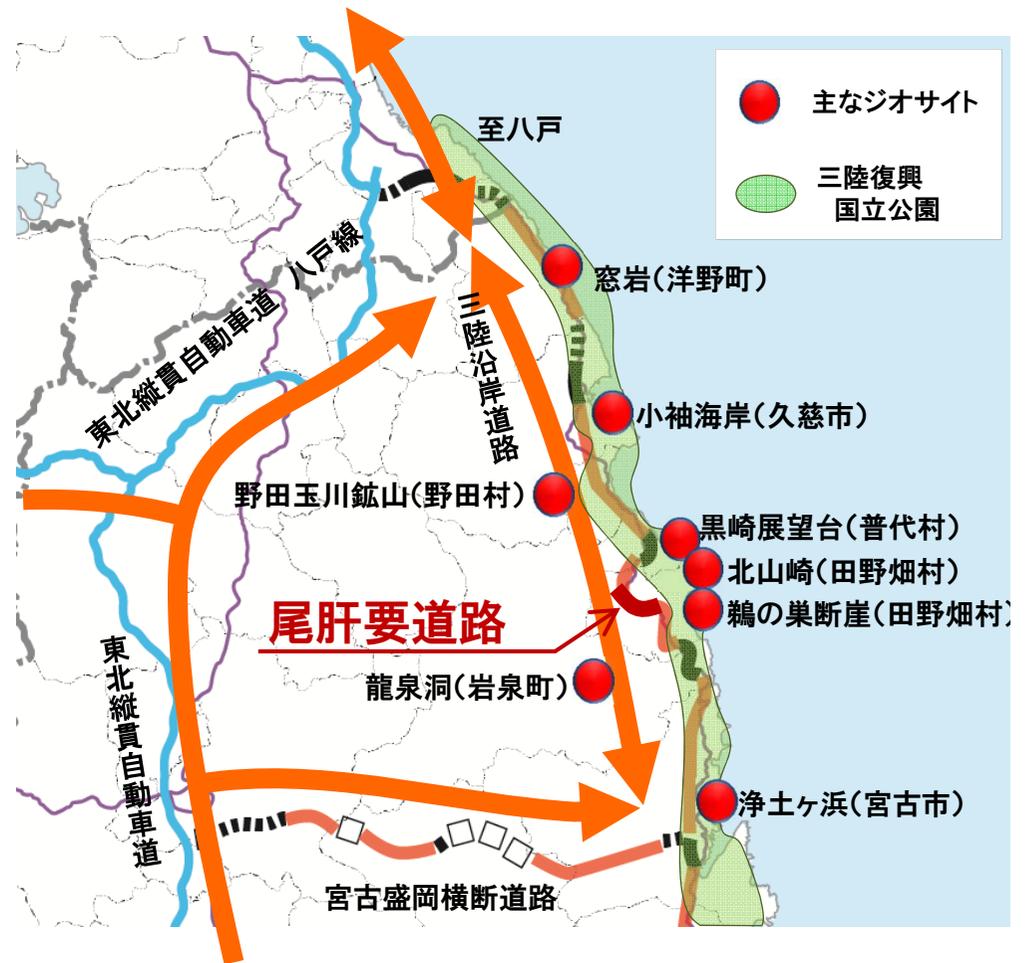
北山崎 (田野畑村)



浄土ヶ浜 (宮古市)



三陸沿岸への観光入込促進が期待

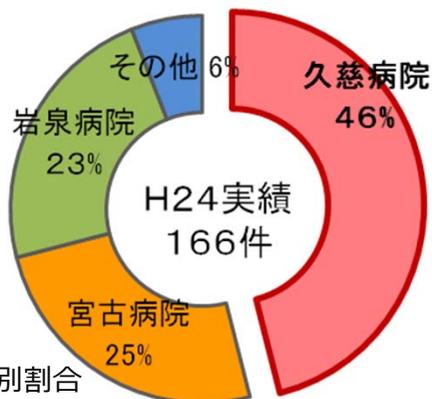


※H25については11月までの数値

最大難所の解消で迅速・安定した緊急搬送が可能に

- ◆ 田野畑村からの救急搬送の約半数は、第三次医療指定の久慈病院へ
- ◆ 閉伊坂峠の急カーブや急勾配を回避し、救急搬送患者の負担を大きく軽減

約半数が久慈病院へ搬送



▲ 搬送先別割合

迅速・安定搬送で救命率の向上に期待

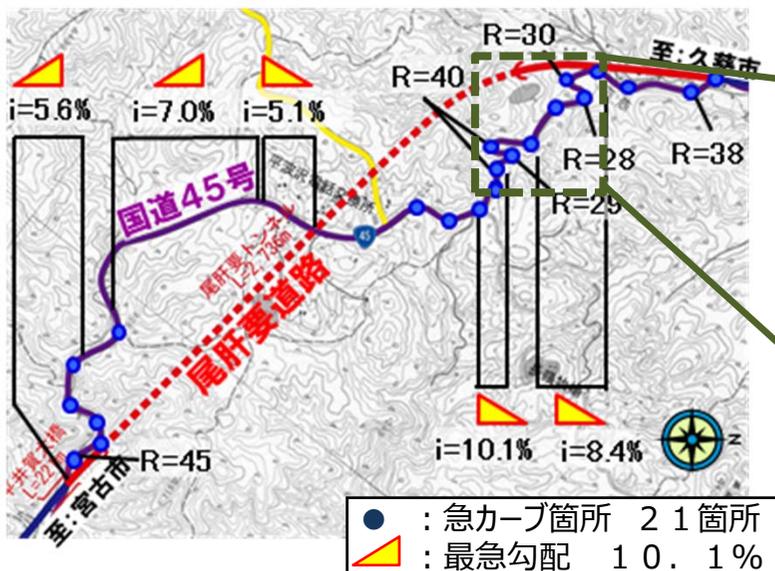


▲ 県立久慈病院



尾肝要道路

閉伊坂峠は急カーブ・急勾配の連続



▲ 閉伊坂峠の急カーブ・急勾配

地域の早期復興のため工事発生土を有効活用

◆尾肝要道路のトンネル工事発生土を、サケふ化場の嵩上げや三陸鉄道等の復旧工事に有効活用し、地域の早期復興を支援



復興道路・復興支援道路の「見える化」

資料—4

- 現在、復興道路・復興支援道路の主要構造物の着手率、完成率はそれぞれ約6割、約3割
- 今後、事業進捗のクリティカルとなる構造物に着手する予定であり、**平成26年度は主要構造物の本格的な整備の年**
- ⇒ **地域の方々に整備の動きを実感していただく工夫が必要**



《(岩手県)主要構造物の着手率・完成率(H26.3.31現在)》

	主要構造物 着手率	主要構造物 完成率
三陸沿岸道路	56%	26%
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	79%	65%
宮古盛岡横断道路	40%	33%
合計	59%	34%

《今後着手する主要構造物》

①区界道路 (仮)新区界トンネル

②宮古田老道路 (仮)閉伊川橋



復興道路・復興支援道路の「見える化」

○復興道路・復興支援道路の整備にあたっては、地域の皆様の理解・協力が不可欠
 ⇒ **整備の進捗を地域の皆様に実感していただくため、関係者が連携して「見える化」に取り組むことが必要**

■これまでの『見える化』取組事例

- ・ 現場見学会、体験会の開催
- ・ CSR活動
- ・ 積極的な情報発信

《事例—1》地域が主役の連結式(吉浜道路)

- ・ 連絡協議会を設置し、施工会社による土木技術教室、現場見学会等のCSR活動を実施
- ・ 吉浜高架橋の連結式では「地域が主役の連結式」のコンセプトのもと、子供たちが主役の連結式を開催



《事例—2》思い出のタイル貼り体験学習(尾肝要道路)

- ・ 完成間近のトンネル中間点において地元小学校6年生が校章と村章の入った内装版用の記念タイル貼りを体験



《事例—3》「かわら版」等の配布



【岩手県】

◆建設発生土有効利用の主な事例

市町村等	復興支援の概要
田野畑村	サケふ化場のかさ上げ
釜石市	区画整理事業等の住宅再建地かさ上げ
陸前高田市	農地復旧のかさ上げ

◆区画整理事業等と事業調整を行った事例

市町村等	事業調整の概要
陸前高田市	区画整理事業と用地区分等の事業調整

サケふ化場の早期復旧に復興道路の発生土を活用【田野畑村】

- ◆ 田野畑村唯一のサケふ化場が東日本大震災で津波被災
- ◆ ふ化場の早期復旧を図るため、国土交通省(三陸国道事務所)に協力依頼
- ◆ 尾肝要トンネル工事の岩ズリ約16,000m³をふ化場整備工事へ提供いただき、早期復旧が実現



区画整理事業等の住宅再建地かさ上げに三陸沿岸道路の発生土を活用【釜石市】



▲搬出状況(八雲地区)



▲搬入状況(鵜住居地区)



▲現状(鵜住居地区)

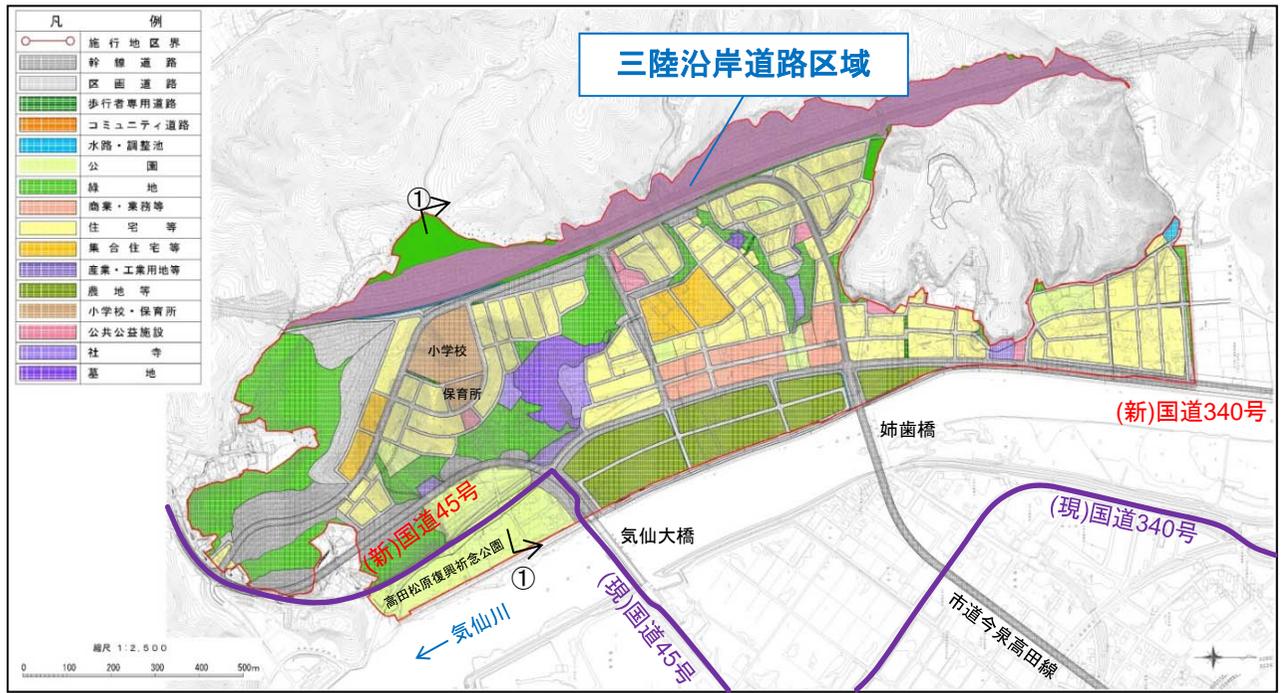


H26年春の耕作再開を目指し、三陸沿岸道路の発生土を活用【陸前高田市】



区画整理事業(今泉地区)と三陸沿岸道路の事業調整【陸前高田市】

区画整理土地利用計画図(事業認可案)



■事業計画区間
 自 平成24年9月26日
 (事業計画決定公告日)
 至 平成31年3月31日

■全体事業費 550億円

- 主な事業内容
- 事業面積 約113ha
 - 切土量 約856万m³
 - 盛土量 約350万m³
 - 人口計画 計画住宅戸数約560戸
 計画人口約1,600人
 - 道 路 三陸沿岸道路
 国道45号
 国道340号

区画整理横断面図(①-①断面)

